

入稿データ
作成
マニュアル

Ai Illustrator (イラストレーター)

◆バージョンについて

Adobe Illustrator は、必ず各バージョンの最新版をご使用ください。

Illustrator8 / Illustrator9 / Illustrator10

IllustratorCS / IllustratorCS2 / IllustratorCS3 / IllustratorCS4 / IllustratorCS5

◆トンボについて

必ずトンボをトリムマークで付けてください。

仕上がりサイズの大きさの長方形を作り、塗りと線のカラーを「なし」にして「フィルタ」→「クリエイト」→「トリムマーク」を選択します。

トンボは必ず線色の設定を「レジストレーション」カラーにしてください。

裏面がある場合は、表裏それぞれの位置が一致するかをご確認ください。(ずれていても、そのままの状態です印刷されてしまいます。)

◆オーバープリントについて

Illustrator の機能の中に「オーバープリント」があります。

上に乗った色が、下になった色と、両方とも混ぜ合わさった形で出力されるものですが、画面上ではそのままでは確認出来ず、トラブルの原因となります。

意図したものでしたら良いのですが、「オーバープリント」のチェックは入れないでください。

◆カラー設定について

ドキュメントのカラーモードは CMYK カラーを使用してください。

カラーはプロセスカラー (CMYK) を使用してください。

スポットカラー (特色) などを使用した場合は、最終データでプロセスカラーに変換してください。

「フィルタ」→「カラー」→「CMYK に変換」

スウォッチ表示の四角の下に黒丸がある色はスポットカラー (特色) です。

◆貼りこみ画像について

画像はカラーは CMYK モード、黒印刷はグレースケール、解像度は 300 ~ 350dpi で作成し、リンク・貼り付けしてください。低解像度のものを印刷すると、粗いガタガタとした仕上がりとになってしまいます。

◆サイズ・塗り足しについて

印刷物の断裁線上に塗りや線などの色がかかるデザインの場合は、「塗り足し」を作る必要があります。

塗り足しとは、印刷物を断裁する時、断裁時のズレにより「白 (紙の地色)」が入るのを防ぐものです。

裁ち切り用に背景のみを天・地・左・右 3mm ずつ伸ばしてください。

伸ばすのは背景のみで、中に入る文字などは、仕上げより 3mm 内側に配置してください。

◆ライン (線) について

0.25 ポイント以下のラインは使用しないでください。

それ以下の線幅ですと、かすれたような印刷結果にしかありませんので必ず 0.25 ポイント以上で指定してください。

パスの線は「塗り」で指定するのではなく、「線種」でカラー指定してください。

※線幅ナシのラインをヘアラインと呼び、このラインは画面や家庭用のプリンターなどはあるように表現してしまいます。

しかしながら、CTP など精度の高いプリンターでは出力されません。罫線は必ず線幅を指定してください。

◆アウトラインについて

必ず文字のアウトラインをとってください。

「文字→アウトラインの作成」

アウトラインを作成していない場合、お客様の意図しないフォントに置き換わったり、文字化けの原因になったりします。

この場合、データを修正して再入稿していただくことになりますので、受付日が確定せず納期が遅れてしまいます。

「書式」→「フォント検索」で使用中の文字がないか確認してください。

◆ラスタライズ効果設定について

ラスタライズ効果設定とは、ドロップシャドウなど、ぼかしの効果を適用した部分における解像度を調整するものです。

Illustrator のバージョンで少し変わりますが、「効果」メニューの中の「ドキュメントのラスター効果設定」（バージョンによりメニュー項目名が多少異なります）という項目があります。

その中の「解像度」を「高解像度」もしくは「その他」で 350dpi に設定してください。

◆保存について

AI 形式もしくは EPS 形式で保存してください。保存の際は、必ず作成したバージョンで保存してください。

バージョンダウンでの保存はエラーの原因となりますので、バージョンダウンはしないでください。

Photoshop (フォトショップ)

◆描画モードについて

カラーの印刷物を作る場合、配置画像のカラーモードは必ず CMYK にして下さい。

黒 1 色での印刷物を作る場合、カラーモードはグレースケールで作成すれば黒のみのデータを作る事ができます。

◆解像度について

一般的に印刷物に使用する画像は 350dpi 程度あれば十分です。解像度が低くなると、印刷物の画質も粗くなり、解像度を必要以上に高くしても印刷物の画質向上はほとんどかわらずデータ容量が肥大化し、編集・出力作業に影響します。

画質と作業効率の両立をさせる為に解像度は 350dpi 前後にするのが理想的です。

画像を Illustrator 等のアプリケーションに配置した後に拡大・縮小はせず、原寸（100%）で使用するようにお願いします。

どうしても拡大・縮小した場合は、配置後、2 倍に拡大するのであれば、元画像は 700dpi 前後の解像度で作成してください。

またロゴマーク等、線画データ（モノクロ 2 階調）の場合は、1200dpi 程度必要となります。

◆レイヤーについて

印刷に不必要なレイヤーは消去し、その後レイヤーの統合をしてください。

レイヤーの統合を行わないと、文字情報が生きておりますので文字化けの原因となります。

◆保存について

Photoshop には色々な保存形式がありますが、一番安定した Photoshop eps 形式での保存をお勧めします（PSD 形式でも可能）。

InDesign (インデザイン)

◆バージョンについて

Adobe InDesign は、必ず各バージョンの最新版をご使用ください。

InDesignCS / InDesignCS2 / InDesignCS3 / InDesignCS4 / InDesignCS5

◆使用フォントにご注意ください

フォントは弊社対応のオープンタイプフォント、欧文 Type I フォント等をご利用ください。

対応フォントでない場合は、グラフィックス化（アウトライン化）していただくか、了解のうえ当社側で類似の書体に変更する場合もあり得ます。

PDF 入稿の場合は、担当者にご相談ください。

また、グラフィックス化した場合には、微妙なズレや、フチ文字などの特殊効果にくずれがおきる場合がありますので、配置画像に換えるなどして問題のないデータづくりをおこなってください。

また、配置ファイル内に使用されているフォントも全てアウトライン化してください。当方で配置ファイルを開いての修正はできません。

アウトライン化されておらず、埋め込まれてもいない場合、そのフォントはバケて出力・印刷されます。

◆画像解像度の確認

画像の解像度は配置サイズで 300dpi ~ 350dpi 程度（モノクロ 2 階調画像は 800 ~ 2400dpi 程度）を目安としてください。パソコン上できれいに見えていても、解像度が低いと、粗くぼやけて印刷されてしまいます。

また、これ以上高い解像度になっても、画質はほとんど変わらず、ただデータ容量を大きくする結果となります。

デジタルカメラのデータは RGB カラーモードですので、フォトショップ等で CMYK カラーモードに変換し解像度調節等おこなった上で配置してください。

◆画像の拡大・縮小について

画像は原寸もしくは 100%前後で配置し、拡大・縮小はできる限り行わないようにしてください。

拡大は解像度不足になりますし、極端な縮小は写真をボケさせる原因になります。

ちなみに InDesign では、「プリフライト」を実行することで配置画像の書類上での解像度を確認することができます。

「ファイル」→「プリフライト」で行う配置画像の解像度の確認

「変更された ppi」が、書類上で縮小・拡大された配置画像の解像度です。

◆配置画像の形式 ほか

配置画像は CMYK モード、EPS 形式 (JPEG エンコーディング可) で、リンク配置を原則としてください。

Photoshop ネイティブ画像や TIFF 画像も目的に応じ使用していただいてもかまいませんが、送稿データ全体の容量を肥大化させる場合があります。後者の場合もリンク配置を原則としてください。

なお、入稿時には「パッケージ...」コマンドを行い、配置画像を同一フォルダに集めリンクが更新された状態でご入稿ください。長いファイル名や不適切なファイル名はリンク切れの元となりますので注意して下さい。

◆塗り足しの確認

オフセット印刷では、印刷後に仕上がりサイズに断裁します。

仕上がり線まで色や画像がくる場合には「塗り足し」が必要になります。

「塗り足し」がないと、印刷後の断裁時にわずかなズレが生じ、紙色の白い部分がわずかに残ってしまうことがあります。

通常 3mm の幅で色や画像の断ち落とし部分である「塗り足し」を作っておきます。

InDesign では新規書類作成時、「ドキュメント設定...」で「断ち落とし」の設定ができます。

◆書類内のマージンについて

塗り足しが必要なのと同様、トンボから内側に最低 3mm 程度のマージンをとって文字や画像を配置するようにしてください。(レイアウト上の「版面」の指定とは別です。また意図的に断ち落としにする場合は除きます。)

特にノンブルや柱など、ページ数の多いパンフレットなどでは、内側のページと外側のページでは紙の厚さぶん仕上がりが寸法に差ができ、ぎりぎりに置かれた文字や写真が切れてしまうことがあります。

◆頁物・小冊子作成の場合

頁物を作成する場合は、「面付け」する必要はありません。「見開き」または「単ページ」ずつで作成してください。

表紙と裏表紙については隣り合って面付けされていてもかまいませんが、本文については連続ページの見開きで作成してください。

もちろん右綴じ・左綴じの間違いは、当社で行う面付けの段階で修正は出来ませんので、作成当初に正しく設定しておいてください。なお、入稿時には台割表等を添付して、明確に仕上がりが確認できるようにしてください。

三つ折りなどのデータ作成の場合には、ページを連結させる方法ではなく、表裏各 1 ページ内に折りを開いた状態でデータ作成してください。

折り込まれて内側に入るページについても、適切な値で短く作成されている必要があります(通常 3mm 程度)。

折り等のトンボについては、折り位置の寸法指定等明確に指示されたものが添付されていれば、なくてもかまいません。

裁ち落とし外にあるオブジェクトを印刷対象にするためには、「新規ドキュメント」または「ドキュメント設定」で「印刷対象領域」を設定することで可能となります。この機能を利用して手動で描いたトンボをプリントすることもできます。ただし、数値指定によって正確なトンボを描く必要があります。

またプリント時には「プリント領域を含む」のチェックを入れた上でプリントしなければなりません。

◆透明の分割・統合設定

透明効果を使用したデータの場合、プリントする場合や EPS 書き出しする場合等には、透明効果が影響を及ぼす部分は「分割・統合」されなければなりません。それぞれのダイアログにある透明の分割・統合設定を「高解像度」にしてください。この設定は印刷物の仕上がりに大きく影響しますので、十分注意しておこなってください。

また、「編集」→「透明の分割・統合設定」で、設定内容の確認、新規の設定を用意することもできます。

ページパレット上で市松模様で表示されたページには透明効果が使用されています。入稿時には今一度透明箇所の設定確認をお願いします。

◆スプレッドオーバーライドを無視

InDesign では、「スプレッドの単層化 ...」の設定により個々のスプレッド(見開き)ごとに透明の分割・統合設定を適用し、ドキュメント全体やブックに設定されている透明の分割・統合プリセットに優先させることができます。

当社では、出力にあたっては、透明効果については「高解像度」、「スプレッドオーバーライドを無視」にチェックを入れない設定で出力します。

「スプレッドの単層化 ...」で設定を変更することは、かなり意識的でないと行えないことであり、なんらかの理由があってそうしたものと理解されるためです。あらかじめご了解ください。

◆特色の使用について

作成中に DICCOLOR 等の特色(スポットカラー)を使った場合にも、スウォッチの設定を開き、カラーモードを「CMYK」、カラー形式を「特色」から「プロセスカラー」に変更したうえで入稿してください。

当社では、出力時に特色は CMYK に自動的に変換されますが、本来の「データどおりの出力」からは外れた処理を行っていることとなりますので、正しくプロセスカラーでのデータ作りをお願いします。

また、特色のままになっていて、透明効果の影響を受けた場合、思わぬトラブルとなる場合があります。

◆オーバープリント設定

「プリント属性」パレットで塗りや線にオーバープリントを設定することができます。意図的にオーバープリントが設定してある場合をのぞき、この設定は仕上がりに大きく影響を与えますので、「オーバープリントプレビュー」等で充分確認のうえ入稿してください。

オーバープリントに係わるトラブルが、多くは気づかないままこの属性を設定してしまったか、この属性をもったオブジェクトを流用してしまったかに起因するためです。オーバープリントを利用している場合は、入稿時その旨指示ください。

また印刷上のトラブルを避けるため、C0%M0%Y0%K100%のブラックに対し一律にオーバープリントがかかるように設定されています。大きな面積のブラック 100%の下に他のオブジェクトや画像がある場合、その影響をうけてブラックの色合いが変わり、その差が目立つ仕上がりになる場合があります。このような場合は、ブラック以外の CMY に 1% ずつの色味を入れることでオーバープリントを回避することができますので、入稿時にはこの点についてもご注意を願います。

◆トラップについて

2色以上のインキを同一紙面に印刷する場合、異なるインキが印刷される部分で隙間ができないように、各印刷版の見当合わせを行い、印刷しています。しかし 何千何万と印刷されるなかで、すべての色・柄の位置を正確に合わせることは非常に難しく、版ズレが起り、各インキで印刷した色・柄の間に若干の隙間ができてしまうことがあります。このような版ズレが起ることを回避するため、接し合う色と色の間で一方が他方に重なり合うように設定することをトラップと呼びます。トラップは現在多くの場合は出力機の RIP によって処理されており、InDesign から直接 CMYK に直接分版出力する場合のみ有効となる設定です。

ただ、データ作成時に版ズレが起りにくくするために、隣り合う色同士に CMYK いずれかのインキ色が共通に使われるような色づかいをしたり、線に対しオーバープリントを設定したりすることで版ズレを見えにくくすることができます。

◆罫線について

罫線は 0.25 ポイント程度以下の細さにならないようにしてください。細い罫線はかすれて印刷されてしまう場合や、点線状態で印刷される場合があります。

また線幅が 0 で塗りのみが指定された線（ヘアライン）は、通常のプリンタ出力では見えても、高解像度の出力・印刷では見えなくなってしまうので、正しく設定するようにしてください。

配置画像のなかには、CAD データや Windows の Office など RGB データから変換されたイラストレーターの線画データや文字のように、ブラック 100%に見えて実際はリッチブラックの状態になっている場合があり、印刷すると滲んだように太くぼけた状態になってしまうことがあります。「出力プレビュー」→「分版」で事前にチェックし、ブラック 100%に変更しておいてください。

◆「パッケージ」機能の活用

入稿用データをまとめるために「パッケージ機能」を利用してください。このコマンドを実行すると、プリフライトしたのち、必要な画像・フォントを収集し、画像については収集されたファイルとの新たなリンクが設定されます。当方との連絡用に「印刷の指示」をテキストとして添付することもできます。

また、フォントについては和文フォントに限らず欧文フォントについてもライセンスの問題がありますので、収集の必要はありません。当方にない書体についてはグラフィックス化することを前提にご利用ください。

KIKURA キクラ印刷株式会社

DTP DESIGN & PRINTING

〒933-0322 富山県高岡市樋詰48-2 TEL.0766-31-2794 FAX.0766-31-3526
URL <http://www.kikura.co.jp> E-mail kikura@p1.coralnet.or.jp



エコアクション21
認証・登録番号 0001870

STOP温暖化!
チーム・マイナス6%